

# 避難場所は、どこ？

## 避難場所はどこ？

自宅近くの避難場所は、知っていますか？

災害は、いつ・どのような形で起こるか分かりません。家族が仕事や学校などに行っているときに発生するかもしれない。また、深夜の寝静まったころ、雪が降り積もる冬季に発生しないとも限りません。

いざというときに備えて、あらかじめ家族と避難場所や避難経路を決めておくことが大切です。

## 避難場所の種類

避難場所は、以下の3つに区分されています。それぞれ状況に合わせて避難しましょう。

### 〈広域避難場所〉

大規模な火災が発生したときに炎や煙から身を守り、安全を確保する場所です。中島公園などの大規模な公園などが指定されています。

### 〈収容避難場所〉

一般的に言われている避難場所のことです。生命・身体を守る屋根があり、避難者を収容するための

施設であって、災害時に対して安全と考えられる建物です。学校や地区会館などが指定されています。

### 〈一時避難場所〉

災害が発生した際、一時的な避難が必要なときに、家族や近所の人の安全を確保する場所です。

地域の小規模な公園（街区公園）などが指定されています。

## 洪水ハザードマップ（中央区版）

洪水被害が想定される危険区域を示した地図が「洪水ハザードマップ」です。

先月上旬から、区内の各家庭に戸別配布されています。河川のはん濫などにより浸水し、または浸水する恐れがある場合に、安全に避難できるように情報が掲載されています。



問い合わせ先

危機管理対策課

☎(215)2090

## 避難場所の確認

次ページに避難場所の一覧表を掲載しています。以下を参考にしながら、あらためて避難場所などの確認をしましょう。

- ① 避難場所と合わせて、安全に通行できる避難路（経路）なども確認しておきましょう。実際に歩いて、危険箇所がないかを確認し、安全に避難場所に行ける経路を調べておきましょう。

災害の状況によっては、道をふさがれて目的の避難場所に行けないことが考えられますので、他の避難場所も覚えておきましょう。

② 水害の場合には、水害に対応できる避難場所を利用しましょう。

左図の水害欄に「○」の表示がある施設が水害に対応できる避難場所です。

- ③ 非常持ち出し品を準備しておきましょう。特に、冬に災害が発生した場合には、寒さに備えることが非常に重要となります。防寒着や手袋、毛布などを用意しておきましょう。

※全市版2ページを参照してください。

## 大規模災害が発生した時は 皆さんの力が必要です

市や防災関連機関だけで対応しきれない規模の大地震などが発生した場合、以下のような役割が皆さんに求められます。

- 火災に対する消火活動・倒壊建物からの救出などの被害の拡大防止および二次災害の防止。
- 避難指示・勧告がだされた場合の迅速な避難・誘導および、お年寄り世帯や障がいのある方などへの避難支援。
- 住居が破損した場合の自主的避難。
- 地震発生後の3日間は家庭内備蓄で自活できるように準備する。
- 避難場所の運営への参加・協力。

これらの対応が出来るようにするために、地域の防災訓練などに参加してみましょう。



## 避難の心得

災害時の避難は、身を守る意味で最も重要なことです。以下について心掛け、もしものときは安全な場所に「早めに避難」することが大切です。

- ④ 隣近所の人と声を掛け合い、複数で避難しましょう。また、お年寄り世帯や障がいのある方などには、手助けをしてあげましょう。
- ⑤ デパートやビルなどで災害にあったときは、従業員などの指示に従いましょう。



- ① ラジオ・テレビなどの災害情報をよく聞き、あわてず落ち着いて行動しましょう。
- ② 必ず徒歩で避難し、自動車は使わないようにしましょう。
- ③ 二次災害を防ぐために、可能な範囲でガスの元栓を閉め、電気のブレーカーなどを切りましょう。

大規模な災害が発生したときは、自分で考え、行動せざるを得ない状況になります。そのようなときに、迅速な対応・行動がとれるように、家族と話し合い、万が一に備えておきましょう。